

令和7年度 第2回石狩市民図書館協議会の会議 議事録

令和8年3月25日(水) 午後3時より午後4時30分
石狩市民図書館 視聴覚ホール

出席者	石狩市民図書館協議会	会 長	河村 芳行
		副会長	松谷 初代
		委 員	佐藤 寿昭
			小笠原 由美子
			工藤 隆司
			中村 友昭
			長谷川 洋子
	石狩市民図書館	館 長	伊藤 学志
		副館長	工藤 一也
	サービス支援兼事業担当主査		工藤 直揮
	事業兼サービス支援担当主事		西村 あい
欠席者	石狩市民図書館協議会	委 員	望月 静華
			青田 奈保子
		傍聴者	なし

<会議次第>

1. 会長挨拶
2. 報告事項
 - (1) 主な事業の開催状況について
 - (2) 令和7年度事業者等からの寄附・寄贈について
 - (3) 教育委員会の点検・評価(令和6年度分)について
 - (4) 令和8年度石狩市民図書館の運営について
3. その他

■開会

河村会長：これより令和7年度第2回石狩市民図書館協議会を開催いたします。本日の欠席は、望月委員、青田委員です。それでは、教育長よりご挨拶をいただきます。

西田教育長：皆様、こんにちは。教育長の西田でございます。本日は年度末の御多忙の折、お集まりいただき誠にありがとうございます。委員の皆様におかれましては、今期の任期が令和8年5月末までとなっております。皆様にごうして一堂にお集まりいただくのは今回が最後となります。そのため、会議に先立ちまして、私から一言ご挨拶を申し上げます。

まず、委員の皆様には、この2年間にわたり、本市の図書館運営および読書環境の向上に対し、専門的な知見から多大なるご助言をいただきましたことに、心より感謝申し上げます。

今年度より、新たな「石狩市民図書館ビジョン」および「第5期石狩こどもの読書活動推進計画」がスタートしております。

この新たな計画に基づき、学校図書館の「学習・情報センター」としての機能を充実させるため、「タブレット版図書検索システム」を市内小学校7校へ、また「電子書籍」を市内全小中学校へ導入いたしました。これにより、デジタルという新たな選択肢を加えつつも、従来の学校司書の専門性を活かした授業支援や、おはなし会、アニメーションなど、紙とデジタルの双方を活かした「ハイブリッド学習環境」の整備が進められたと考えております。

また、イベントに関しましても大きな成果がございました。昨年度（令和6年度）に5年ぶりの復活を遂げた「石狩市民図書館まつり」は、今年度さらにパワーアップし、館内全体がハロウィンの雰囲気になりました。仮装した来館者も多く集まり、大変盛大に開催することができました。

さらに「科学の祭典 in 石狩」におきましても、過去最大となる17の科学体験ブースが出展し、子どもたちが身近に科学に触れる素晴らしい機会を創出することができました。

社会教育課との共同事業である「こども司書養成講座」につきましても、単に司書業務を体験するだけでなく、図書館まつりなどのイベントのお手伝いなどリーダー養成の要素も取り入れており、子どもたちの自発的な活動を促す大変有意義な事業に成長したと感じております。

こうした中、友好図書館であります宮城県名取市図書館より、能登半島地震で被災された図書館への支援を共に行わないかとのお声がけをいただきました。

被災された図書館の中には、本館の友好図書館である輪島市立図書館も含まれていたことから、「能登半島地震 被災地応援プロジェクト」を立ち上げ、募金活動とともに毎月チャリティイベントを実施してまいりました。

つい先日開催いたしました「パンとおかしのspringマルシェ」におきましては、開館前から長い行列ができ大盛況となるなど、市民の皆様から大変温かいご協力をいただいております。

おかげさまで、募金総額は石狩市民図書館と名取市図書館、合わせて20万円を目標としてお

りましたが、石狩市民図書館単独で約25万円もの募金が集まりました。

この集まった募金により、被災された3つの図書館へ、新聞と雑誌を1年間寄贈させていただきます。文化の力で被災地を支えるこの取り組みは、友好図書館としての絆をより深める大切な一歩となりました。

図書館は、市民の皆様とともに成長し続ける場所です。来年度も「市民とともに歩む図書館」というコンセプトを大切に、皆様からいただいたご意見を真摯に受け止め、より質の高いサービスを提供できるよう努めてまいります。

結びになりますが、皆様の2年間にわたるご尽力に改めて深く感謝を申し上げますとともに、皆様方の益々のご健勝をお祈り申し上げまして、私からの開会のご挨拶とさせていただきます。2年間、本当にどうもありがとうございました。

河村会長：ありがとうございました。公務の都合により、教育長はここで退席されます。それでは改めまして、本日はお忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。効率よくスムーズな会議運営に努めたいと思いますので皆さまのご協力をお願いいたします。

本日の会議は、報告事項4件を予定しております。16時30分を目処に終了したいと思いますので、どうぞよろしくお祈りいたします。図書館から事前にご送付された資料はお持ちでしょうか。お持ちでない方は、お知らせください。

■報告事項

(1) 主な事業の開催状況について

河村会長：それでは、報告事項(1) 主な事業の開催状況について、図書館から説明をお願いします。

西村主事：それでは、西村より、令和7年度の事業報告について、正面スクリーンを用いながら説明いたします。お手元の会議次第2ページ以降をご覧ください。まず、〈市民図書館開催事業〉についてご報告いたします。

開館25周年記念事業「門井慶喜氏講演会」です。作家・門井慶喜さんが昨年4月に発刊した「札幌誕生」の執筆にあたり、当館が資料提供に協力したご縁から、4月23日に講演会とサイン会を実施しました。参加者は104名です。

・「こども司書養成講座」です。こちらは市民図書館と社会教育課の共同事業です。令和7年7月から全4回開催し、参加者6名全員が第3期子ども司書に認定されました。第1回目は、オリエンテーションと配架・貸出業務体験。第2回目は、地域資料の学習や、石狩の食材を使ったカレーライス作り、当館の修理ボランティアにご協力いただき修理体験。第3回目は、2班

に分かれて、本の特集展示の企画・設営。第4回目は、実際にお客様の前で絵本の読み聞かせを行い、こども司書に認定されました。また、昨年認定された第2期生が運営補助や第3期生のフォローに協力してくれました。

「こども司書第1期生卒業式」です。令和5年度認定の第1期生には、これまで各種イベントに協力してもらいましたが、来年度には受験期を迎える子もいることから、卒業特集展示・展示紹介動画の制作・卒業式を実施しました。

卒業式では、一人ひとりに思い出写真付きの卒業証書を授与し、4年間の思い出ムービーを上映しました。6名が構成を考えて撮影した展示紹介動画をご覧ください。（石狩市民図書館公式YouTubeに掲載：https://youtu.be/ksavs45_4mQ?si=129V_jugrd0pvoMT）

「図書館ボードゲームイベント」です。来館の少ない中高生の利用促進を目的に、北海道アナログゲーム教育研究会の協力を得て2回実施しました。第1回実施後から、3種類のボードゲームの館内貸出を開始しています。第2回目は、イベント終了後、フリー体験も実施しました。参加者は第1回8名、第2回3名と少人数ではありますが、学校や学年を超えた交流の場となっており、今後さらに参加者を増やす工夫を行い、継続していきたいと考えています。

「海獺氏による講演会・ワークショップ」です。Wikipedia元日本語版管理者の海獺さんを講師に迎え、情報リテラシーに関する講演会と、実際にWikipediaを編集するワークショップを実施しました。講演会26名、ワークショップ12名の参加がありました。

「第15回科学の祭典in石狩」です。9月14日に開催しました。第15回目の節目として、オープニングセレモニーをコロナ禍明け初めて再開し、こども司書第1期生の開会宣言、市長挨拶、手稲高校サイエンスボランティアによるバケツスライムづくりショーを行いました。また、スタンプラリーを実施し、図書館オリジナル3色マーカーとこども博士認定証をプレゼントしました。昨年度より規模を拡大し、全17ブースが出展し、参加者は428名です。

「いしかり館ネットワーク事業」です。石狩浜海浜植物保護センター、公民館、いしかり砂丘の風資料館、図書館の4館連携により、9月20日に紀伊国屋書店札幌店で、トークイベント「ウミベオロジー」を開催しました。テーマは、「石狩海辺学2025（クジラ・イルカの座礁など）」です。

「第22回石狩市民図書館まつり とびこもう！魔法の世界へ！」です。ボランティア・図書館関係団体・職員による運営員会で企画し、工作体験やおはなし会、ビブリオバトルなどを実施しました。図書館まつりの開催時期がハロウィンに近いことから、仮装やトリックオアトリー

トでおかしプレゼントの企画を新たに実施し、多くの来場者楽しんでいただきました。
石狩市でハロウィンの催しは恐らくなかったため、需要が高く、次年度も継続して実施できればと考えております。運営にあたっては、石狩翔陽高校ボランティア局や札幌学院大学にご協力いただきました。参加者人数は記載のとおりです。

「能登半島地震被災地応援プロジェクト」です。友好図書館である宮城県名取市図書館を通じ、同館の市民ボランティア団体「友の会・なとと」から、能登半島地震で被災された図書館を応援するプロジェクトへの参加の誘いがありました。当館と友好図書館である輪島市立図書館も被災していることから、本プロジェクトに参加しました。

令和7年11月16日の「JAZZ NIGHT」から募金活動を開始し、閲覧室内への募金箱の設置に加え、毎月チャリティーイベントを企画・実施しました。

12月の第1弾は「ころぼかぼかプログラミング&ボドゲの日」を開催し、会場に募金箱を設置しました。また、喫茶コーナーでは、熱燗やホットワイン、みそおでんを販売し、売上の一部を募金しました。

1月の第2弾①「開運！ぶっくん神社」です。エントランススクリーンに「ぶっくん神社」を作って、投影し、募金箱を賽銭箱に見立て、募金してくださった方に、「名言付き黄金のぶっくんしおり」をプレゼントしました。

あわせて設置した「ぶっくん絵馬」には、子どもから中高生、大人まで幅広い世代の方々に願い事などを書いていただき、192枚もの絵馬が集まりました。期間終了後は、エントランスホールに掲示しました。

第2弾②1月10日、11日に喫茶コーナーでは「ふるまい甘酒」を販売し、売上の一部を募金しました。

第3弾③1月11日には、「ころ和むゆるっとお抹茶たて体験」を開催。参加費100円を全額募金とあわせて、「和洋菓子のなかむら」がお菓子を販売！売上の一部を募金しました。

2月には、第3弾①「石狩を懐かしむ映像上映会」を2回開催し、当館に所蔵されているかつての石狩の貴重な映像を上映する企画を実施したところ延べ100名以上にご参加いただきました。

第3弾②「バレンタインチャリティーコンサート」では、石狩市民吹奏楽団フルート&ピアノトリオ「凜音（りおん）」に演奏していただきました。また、喫茶コーナーにてチョコレートドリンクを販売し売上の一部を募金しました。

そして、第4弾、想いを繋ぐ最終章として「パンとおかしのspringマルシェ」を開催しました。市内9店舗のパン屋・おかし屋さんにご協力いただき、図書館エントランスホールにて実

施したところ、650名を超える来場があり、開始から1時間ほどで商品がほぼ完売するなど、大変大きな反響をいただきました。石狩市内でも恐らく初めての内容のイベントでしたので、継続して実施できたらと思っております。

募金箱総額は、石狩市民図書館は251,965円、名取市図書館「友の会・なとと」は108,443円、総額360,408円となり、目標の204,000円を大きく上回る結果となりました。

お預かりした募金は、被災地の地元新聞店・書店を通じて新聞や雑誌を寄贈し、被災地域の皆さまへ情報や文化を届ける支援として活用します。

「市民展示室」です。市民個人が生涯学習活動の成果を無料で展示できるスペースとして運営し、今年度は、8名による延べ10回の利用がありました。こちらの展示は、松谷副会長のハロウィンにちなんだ展示です。図書館まつりに合わせて展示していただき、可愛くて楽しいとっても素敵な展示をありがとうございました。展示に関連する図書を併設する取り組みも行い、展示内容への理解促進につなげています。

「開館25周年記念図書館プロモーションビデオ制作」です。開館25周年を記念し、石狩市民図書館をより多くの方に知ってもらう目的でプロモーションビデオを制作しました。制作には、こども司書第1期生や図書館の会計年度任用職員親子にご協力いただきました。その映像をご覧ください。

(石狩市民図書館公式YouTubeに掲載：<https://youtu.be/4ReKKU2qb34?si=HL0iAogRTM06chKj>)

「図書館公式Facebook・Instagram」です。情報収集の中心がSNSやYouTubeへと移行している現状をふまえ、今年度は見やすく・分かりやすいデザイン・ストーリーズの積極的な更新を心がけて運用したところ、フォロワー数がFacebookは80名、Instagramは320名以上の増加につながり、現在は722名となっています。皆さんもぜひフォロー・いいねをお願いいたします。

今年度の図書館事業は、新たな取り組みが非常に多く、当館のコンセプトである「図書館のなかに街をつくろう」のもと、「新しいまちづくりの拠点」を目指した一年となりました。図書館が地域のにぎわいを生み出す可能性を実感するとともに、今後も、これまで来館されたことのない方にも足を運んでいただけるような取組を進め、図書館サービスのさらなる充実に努めてまいります。図書館事業については以上です。

工藤主査：続きまして、学校図書館事業です。第14回「図書館を使った調べる学習コンクール石狩コンクール」です。調べる学習コンクールは、子どもたちが主体的に学ぼうとする意欲を育むとともに、図書館等の活用により、情報を取捨選択し、自分の考えをまとめる力を身に付

ける機会とすることを趣旨として、石狩市内の小中学生を対象に実施しました。本コンクールは、公益財団法人図書館振興財団が実施している全国規模コンクールの地域コンクールになります

夏休み期間中、石狩市民図書館を会場に、特別講座を2日間実施しました。学校司書が講師となり、実際に子どもたちが自分の調べたいテーマを決めて、調べ学習に取り組みました。

今年度は新たに、石狩への興味と理解を深める目的で、石狩を題材にした作品に授与する「いしかりっこ賞」を新設したことに伴い、砂丘の風資料館学芸員による特別講座も実施しました。

今年度は、274作品の応募があり、最優秀賞5点、優秀賞7点、佳作11点、奨励賞21点を決定しました。表彰式を11月23日にエントランスホールで実施しました。

・また、最優秀作品、優秀作品から5作品を全国コンクールへ推薦した結果、5作品が佳作に入選いたしました。

「図書館利用ガイダンス」です。市内小学校5校の主に2年生と市内高校1校へ実施し、図書館の説明及び館内を案内して、図書館の役割や使い方を学んでいただきました。

「職業体験」です。市内中学校、高校のほか、武蔵女子短期大学の学生を受け入れ、貸出カウンターや本の装備、修理体験、本の特集展示づくりなどの体験を行いました。

「特定テーマについて学習する司書研修」です。写真はございませんが、市民図書館司書を対象に、地域の情報や司書業務に関する研修を開催しました。令和7年度の事業報告につきましては、以上です。

河村会長：議事録作成のため録音をしておりますので、お名前を述べてから出来るだけ大きな声でご発言をお願いいたします。それでは、ご質問のある方は、いらっしゃいますか。

松谷副会長：今年度、石狩市民図書館のコンセプトである「図書館のなかに街をつくろう」が、さまざまな事業をたくさん企画し、こんなに顕著に現れており、とても素晴らしいなと思いました。

取り組まれた図書館の方は大変だったと思いますが、先ほどの説明にもあったとおり、災害支援の募金活動をきっかけに、市民図書館として新しい取り組みを始めたと思いますが、私の実感から、最後の「パンとおかしのspringマルシェ」について、石狩市にこんなにパン屋さんがあったのかと、驚きました。

図書館は、本を借りたり読んだりするだけでなく、さまざまな人が集まり集う場、人と人を繋ぐ場として成りうる、新しい市民図書館になっていると感じました。

大変だとは思いますが、こういった活動がいくつか繋がってきていますので、今後は募金と切り離してでも良いですし、被災地はまだ支援が必要な地域もあると思いますので、こうした

取り組みを続けていけたら良いのではないかと思います。

人と人、地域と図書館がつながる、とても良い一年だったと感じています。ありがとうございました。

河村会長：「図書館のなかに街をつくろう」というコンセプトがとても素晴らしいなと思いました。恵庭市では「恵庭まちじゅう図書館」として、街全体を図書館にしようという取り組みが行われていますが、石狩市では図書館を中心ということでプロモーションビデオを拝見しましたが、図書館のなかに利用者が集まり、市民を呼び込んでいこうという様子がよく伝わってきて、とても良かったと思います。

ぜひこのプロモーションビデオを授業で使わせていただければと思います。ありがとうございました。

長谷川委員：先ほどのプロモーションビデオや本の特集紹介動画など、こども司書卒業生が参加して制作し、それを外に発信できている点が素晴らしいと思いました。

こどもたちが図書館を活用することが少なくなっている中で、このように目に触れる機会が増えることで、「自分も」と思うこどもたちが増えていくのではないかと感じ、とても素晴らしいと思います。

松谷委員：初めて石狩市民図書館のプロモーションビデオを見たとき、とても驚きました。

Instagramだけでなく、テレビなどでも流したいくらいの素晴らしいクオリティだと思います。もっと多くの方に見てもらえたら良いですね。

長谷川委員：石狩市役所 1 階の大型スクリーンはどうでしょうか。

西村主事：令和 7 年 11 月に 1 ヶ月間放映しました。

河村会長：これはプロが関わっているのでしょうか。

西村主事：石狩市の観光プロモーションビデオを制作した会社を観光課から紹介していただき、そちらに依頼して制作しました。

河村会長：素晴らしいですね。先ほど、このプロモーションビデオは YouTube で視聴できるとお話しがありましたが、石狩市民図書館のホームページからも見ることはできますか。

西村主事：はい。可能です。ホームページ上段と中段に、クリックすると YouTube 動画が再生されるバナーを設置しておりますので、そちらからご覧いただけます。

河村会長：ありがとうございます。他にご意見ございませんか。

— 会場から発言無し —

(2) 令和7年度事業者等からの寄附・寄贈について

河村会長：次に、(2)事業者等からの寄附・寄贈について、図書館から説明をお願いします。

工藤主査：私から「事業者等からの寄附・寄贈について」ご説明いたします。次第6ページをご覧ください。令和7年度の金銭による寄附はございません。

令和7年度の寄贈は、「北海道アナログゲーム教育研究会 様」からボードゲーム全17点。「福岡 孝 様」から『ほっかいどう！ 図解 自然環境&自然災害』（福岡孝・著）を市内小中学校へ1冊ずつ寄贈とのことで全17冊。「株式会社 環商事 様」から児童書88冊。「米澤 茂 様」から石狩市八幡地区家屋配置図 1部。「NPO法人ひとまちつなぎ石狩 様」から図書6万円分。「株式会社 ワールドウッティ 様」から図書10万円分となっております。私からの説明は以上です。

河村会長：それでは、ご質問のある方はいらっしゃいますか。

私からですが、寄付については、図書館としては現金でいただくよりも、図書や現物でいただけたほうがよろしいのでしょうか。現金の場合は一度市の会計に入る形になるのですよね。

工藤副館長：事務的な手続きだけを考えると、図書でいただいた方が大変ありがたいです。先ほど説明のありました「株式会社ワールドウッティ」様からは、毎年10万円の寄附をいただいておりますが、現金の場合は、一度市の会計に入れるために、議会を通さないといけなく、時間も労力もかかるのが正直なところでは。

ただ、どのような形であってもご寄付をいただけること自体、大変ありがたく思っておりますので、図書でいただけるとより助かるという状況です。

河村会長：やはりそうですね。例えば10万円のご寄附をいただく場合、図書館側で10万円分の選書を行うことは可能なのでしょうか。

工藤副館長：ご寄付いただく方のご希望もあると思いますが、「株式会社ワールドウッティ」様や「NPO法人ひとまちつなぎ石狩」様をはじめ、大体の方は選書を一任してくださっておりますので、ご寄附額に応じた形で選ばせていただいております。

河村会長：とても良い方法だと思います。他にご意見ございますか。

中村委員：大学も同様ですが、現金での寄附は手続きが難しい面があり、現物でいただいた方がやはり扱いやすいです。大学の場合は、こうした形での寄贈はほとんど無く、退職された教員の方からご自宅に入りきらなくなった書籍の寄贈が多く、不要なものが含まれることもあります。その点、石狩市民図書館では選書を行い、必要な資料を受け入れているため、利用者にとっても良い形になっていると感じました。

河村会長：ありがとうございます。今お話にあったように、不要になったものの寄贈というケースもあるとのことですが、石狩市民図書館ではそのような寄贈はありますか。

工藤主査：一般の方から寄贈の申し出があり、中を拝見し、蔵書として必要なものは受入れています。中にはご自宅の整理を目的とされている方もいらっしゃいますので、エントランスホールに設けているリサイクルコーナーをご案内し、自由に置いて自由に持ち帰っていただけるスペースも活用させていただいています。

河村会長：それは良い取組ですね。北広島市では、図書館まつりの際に「ばくりっこ」という、1冊持ってきたら1冊持ち帰れるイベントを行っていますが、石狩市の場合は持ってこなくても持ち帰れる仕組みなのですね。

工藤主査：はい、自由にご利用いただける形にしています。

河村会長：そうした場を設けるのはとても良いことだと思います。以前は寄贈を受けて選書し、お礼状を出すという形が一般的でしたが、このように場所を活用してもらうのは良い取組ですね。他にございますか。

中村委員：図書や雑誌以外の物品や備品類の寄贈はありますか。

工藤主査：「株式会社環商事」様から、令和6年度に児童書に加えて折りたたみテーブル15台をご寄贈いただきました。図書館まつりや科学の祭典などの事業、また特集展示などで活用しており、大変ありがたく使わせていただいています。

河村会長：寄贈者の募集はされていますか。

工藤副館長：特に募集は行っておりませんが、「株式会社環商事」様のように石狩市にゆかりのある企業など、ご縁のある方からご寄贈いただくことが多いです。こちらから積極的に呼びかけるといよりは、自然と集まってくる形となっています。

河村会長：素晴らしいですね。雑誌スポンサー制度なども行っていますか。

工藤副館長：はい、現在も継続して実施しておりますので、今後はPRもしていきたいと考えています。

河村会長：図書館の予算も厳しい中で、さまざまな工夫をされているのですね。他にございますか。

長谷川委員：寄贈されたボードゲーム17点は、イベント以外でも普段から貸出を行っているのでしょうか。

工藤副館長：はい。現在寄贈いただいているボードゲームについては、寄付者のご希望もあり、中学校に配備して活用していただいています。一方で、今年度実施した第1回ボードゲームイベントで使用した3点については、石狩市民図書館内で貸出を行っています。寄贈分は中学校、購入分は図書館で活用しているという形になっています。

河村会長：ありがとうございます。他にございませんか。

— 会場から発言無し —

(3) 教育委員会の点検・評価（令和6年度分）について

河村会長：次に、(3) 教育委員会の点検・評価（令和6年度分）について、図書館から説明をお願いします

工藤副館長：私から「教育委員会の点検・評価（令和6年度分）について」ご説明いたします。資料①をご覧ください。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律の規定により、教育委員会は、毎年、点検及び評価を行って、その結果を議会に提出、公表することとなっています。

教育委員会は、令和6年度の活動状況及び主要な施策・事業について点検・評価を行い、教育に関し学識経験を有する方々による「石狩市教育委員会外部評価委員会」の意見を踏まえ、「教育委員会の点検・評価報告書」をまとめ、昨年9月の会議で決定し公表しました。

・今回、お配りしました資料は、この報告書のうち、図書館部分の抜粋になります。

外部評価委員会からは、27ページに記載の「施策 18読書活動の推進について」、令和6年度の取り組みに対して2つのご意見をいただきました。

一つ目の「調べる学習を通して、関心・意欲・活動の広がりを期待します。」というご意見に対しては、「石狩市の歴史、文化、自然等を題材とした作品に対して「いしかりっこ賞」を令和7年度に新設し、調べ学習を通じた児童生徒の関心や意欲の向上、更なる活動の広がりを後押しできるよう努めます。」と回答しております。

また、二つ目の「図書館がメディアセンターとしての機能を果たし、知識をインプットするための場としてだけでなく、市民が試行錯誤したり発信したりすることを促進する拠点となることを期待します。」というご意見に対しては、「図書館がメディアセンターとしての機能を果たし、市民の試行錯誤や発信を促進する拠点となるよう、様々な情報を収集し活用できるように努めます。」と回答しております。私からの説明は以上です。

河村会長：それでは、ご質問のある方はいらっしゃいますか。

佐藤委員：調べる学習コンクールについてご説明がありましたが、今年度委員として関わり、講評も行わせていただきました。その中で、「いしかりっこ賞」が新設された経緯について理解することができました。今年度は期待していたところまでは、至らなかったという印象もありますが、今後継続していくことで、自分のふるさとに目を向ける良い機会になるのではないかと感じています。次年度以降も関わることになると思いますので、引き続きしっかり協力していきたいと考えています。

工藤副館長：ありがとうございます。

河村会長：他にございませんか。

— 会場から発言無し —

(4) 令和8年度石狩市民図書館の運営について

河村会長：次に、(4) 令和8年度石狩市民図書館の運営について、図書館から説明をお願いします。

工藤副館長：令和8年度の石狩市民図書館の運営についてご説明します。

令和8年度は「石狩市民図書館ビジョン」の計画2年目として、大きく4つの重点施策を中心に事業を展開してまいります。

1点目は、「こどもの学びの支援」です。こどもが本に親しむ機会を提供するとともに、学校図書館の「学習・情報センター」機能の充実を図ります。

具体的には、認定こども園や児童館等と連携し、図書館見学や出張おはなし会を実施するほ

か、大型絵本等の貸出機会を充実させます。

また、昨年度導入した学校図書館の本を検索することができる「タブレット版検索システム」や電子書籍の活用を促進するため、学校司書による専門的支援を行います。

おはなし会については、読書週間等に合わせて学校図書館へ司書が出向き、読み聞かせの機会をさらに提供します。

調べる学習の推進では、今年度新設した「いしかりっこ賞」の周知を学校と連携して図り、調べる学習コンクールへの児童生徒の参加を促します。

さらに、中学生に向けては学校司書と連携した取組の検討、高校生に向けては市内高校2校へ出向き、図書室の利用状況等の聞き取り調査を行います。

2点目は、「蔵書の充実と市民の生涯学習支援」です。多様なニーズに応える蔵書の充実や、利用者間の交流・学習機会の創出により、生涯学習活動を支援します。

社会教育共同事業として、市民個人が利用できる「市民展示室」の利用者拡大に向け、社会教育課と連携して事業を推進します。あわせて、こども司書養成講座の内容充実や、卒業生との関わり方の充実を図ります。

蔵書・情報源の充実としては、より専門的で石狩に関連の深い専門紙の購入を検討します。また、地域資料については、収集した情報の整理・保存方法を工夫し、活用しやすい環境整備に努めます。

寄贈図書の活用では、雑誌スポンサーの拡充に向けて、協力企業の紹介や展示を実施します。

3点目は、「市民の誰もが利用できる環境整備」です。世代や障がいの有無、地域に関係なくサービスを受けられるよう努めます。来館が困難な方へのサービスについては、郵送料の上昇により利用しにくくなっている「宅配サービス」の利用者負担軽減や、運用効率化に向けた改善策を検討します。あわせて、対象要件や配送方法等の見直しも含め、継続して利用しやすいサービスとなるよう検討を進めます。

また、地域資料の利便性向上と保存の両立を図るため、デジタル化に向けた調査・研究を継続します。

さらに、市役所関係部署と連携して利用者ニーズを把握し、優先順位を整理した上で順次対応を進めるほか、外国人へのサービスについても調査・検討を開始します。

4点目は、「サービスを支える基盤整備」です。積極的な情報公開や対話を通じた市民との協働を進めるほか、施設の補修や職員の資質向上など、基本サービスの充実に継続して取り組みます。

令和8年度は、施設の補修・機器の更新として、誰もが安心して利用できるよう、図書館エレベーターの改修工事を行います。あわせて、収蔵スペースの逼迫を解消し、貴重資料を適切

に保管するため、集密書架を増設いたします。私からの報告は以上です。

河村会長：ありがとうございました。令和8年度の重点目標についてご説明いただきましたが、ご質問のある方はいらっしゃいますか。

松谷副会長：1ページ目に2点あります。1点目は「認定こども園・保育園との連携」についてです。大型絵本や紙芝居の記載がありますが、おはなし会では30人以上の参加規模になるとこれらが必要になります。貸出の充実はとても良いことだと思いますが、1冊1万円を超えるものも多く、人気のある本は傷みも出てきていると思いますので、新規購入についても検討していただければと思います。

2点目は「学校図書館に行きたくなるような取組の充実」についてです。高校生への聞き取り調査とありますが、どのようなイメージなのか教えていただきたいです。

工藤副館長：1点目について、これまで直接的な働きかけはあまり行っておらず、受け身の部分がありました。やはり図書館に来ていただきたい気持ちはありますし、現在、大型絵本などはこども園の先生が個人カードで借りているケースが多いため、団体でも借りられることの周知を行っていきたいと考えています。

また、現在は紙芝居の舞台や大型絵本スタンドの貸出は行っていませんが、ニーズがあることから、市内限定にはなるとは思いますが貸出を検討しています。

コロナ禍でできなかった取組を、令和8年度は力を入れて進めていきたいと考えています。

予算は限られていますが、大型絵本の購入についても検討していききたいと思っています。

2点目について、高校との関わりはこれまであまり進められていませんでした。図書館まつりや科学の祭典でボランティアとして関わってもらうことはありましたが、図書館としてお役に立てることがないかを高校と意見交換したいと考えています。例えば、希望があれば返却BOXを高校に設置したり、予約本を高校へ届けるといったことも考えています。まずは高校生のニーズを把握するために、意見を聞く機会を設けたいと考えています。

河村会長：高校への聞き取りについてですが、市民図書館として意見箱は設置されていますか。

工藤副館長：現状図書館に意見BOXは設置していません。そういったご意見が出たこともありますので、今後はイベント等の機会を活用して意見を聞いていきたいと考えています。

河村会長：意見箱を設置することで、市民と図書館の関係がより密になるという話も聞いています。できること・できないことを丁寧に回答していくことで効果があると思いますので、大変だとは思いますが、昔の目安箱のような形であるとまた違うのかと思いました。

工藤委員：大型絵本については、寄贈希望として募るのも一つの方法かと思いました。

また、八幡郵便局で図書館コーナーの棚を見かけましたが、イオンやラルズなど人が集まる場所にも設置できれば、利用促進につながるのではないかと思います。

さらに、さまざまな人の利用といった際に、外国人の転入が増えていることから、英語など外国語の本の充実についても検討の余地があるのではないかと思います。

工藤副館長：1点目の郵便局での取り組みは、市内の郵便局に図書館の古くなって使用しなくなった除籍本を無料で設置するサービスを数年前から行っています。比較的待ち時間が多いところとして郵便局にまず設置しており、美容室や病院などへの設置についての希望もあります。美容室ですとタブレットで雑誌を見るのが一般的かと思いますが、病院は衛生面の問題もあり、機会があれば医師会などを通じて、ニーズを確認しながら検討していきたいと考えています。

外国語資料については現在も所蔵がありますが古いものが多いため、限られた予算の中で充実を図っていききたいと思います。

小笠原委員：「こどもの学びを支援する」部分で、私も認定こども園で仕事をしているので、やはり大型絵本はとても重要視されており、小さな絵本だと見なくても、大型絵本を出すだけで、こどもの関心を引きやすく、効果を実感しています。こども園でも毎年数冊は購入するようにはしていますが、やはり高価なので貸出が充実すると有難いです。また、常に絵本の読み聞かせは行っておりますが、外部の方が来て、図書館司書による出張おはなし会があると、きっと、環境が変わって絵本を好きになる子が増えるのかと思いました。利用させていただいたら私達も利用したいと思います。

河村会長：来館が困難な方への宅配サービスについて、高齢者の方は無料でしょうか。

工藤副館長：郵送料は自己負担になってしまい現在は料金が高く、利用を断念される方もいらっしゃいます。

河村会長：以前、障がい者の方など無料ではなかったですか。

工藤主査：障がい者手帳をお持ちの方は割引制度がありますが、無料ではありません。以前はゆうメールを使用していましたが、段々と送るサイズの規格など郵送条件が厳しくなっており、運用が難しくなっています。

河村会長：宅配は中々難しいですね。電子書籍は購入されていますか。

工藤副会長：今年度から小中学校向けに電子書籍を導入しています。一般向けには未実施ですが、北海道立図書館の電子書籍等が利用できるよう、当館で利用登録の受付を行っています。

河村会長：ありがとうございます。大変良い取組だと思います。石狩市は先進的な図書館で、学ぶ点が多いと感じました。

長谷川委員：意見箱についてアナログが良いと思いますが、小中学校向けのタブレット版図書館検索システムに、こどもたちが意見を入力できる機能を追加するのはいかがでしょうか。

工藤副館長：タブレット版図書館検索システムは、学校図書館にある本を検索するだけのシステムで、パッケージ型でカスタマイズが難しいため対応は困難ですが、学校司書を通じて意見を吸い上げる方法について検討したいと思います。

河村会長：図書のパッケージ型について、リクエスト制度はありますか。

工藤副館長：はい、導入しています。

河村会長：リクエストされた物が購入されると利用者は喜ぶと思いますが、購入できなかった際の理由のフィードバックについてもきちんと回答してあげると、図書館と市民が密になります。その辺りは行っていますか。

工藤副会長：その辺りを当館は手厚く行っておりますので、主査の工藤から説明させていただきます。

工藤主査：購入できた場合は連絡し、購入できない場合は理由を説明しています。市民の方であれば、相互貸借を利用できる場合もあります。札幌市民の方だと、札幌市に所蔵している場合もあるので借りることができる旨の情報提供も行っております。

河村会長：新刊本だと、札幌市は200番や400番の予約になります。400番目で予約したらいつ借りられるのかの実験をしたところ、丁度1年後に借りられました。新刊本を読みたくてリクエストをする方が多いと思いますが、そういった制度なので、急ぐ方は書店で購入してもらうということでしょうかね。意外と新刊本であれば、大学図書館は穴場ですよ。

中村委員：400番目は流石に無いですが、予約が多い本は、長期貸出の場合も貸出期限を2週間にして回転を上げています。

工藤委員：先ほどのリクエストの話で、僕もインターネットで見て新しい本の情報を見たら、いかに1番にリクエストできるかすぐ予約に入るのですが、結構石狩市民図書館で予約が結構

入っておりいつになるのか不明な場合も、道立図書館で検索すると借りられておらず、そちらの活用もできるので、便利だと思っております。

ボードゲームの貸出について、エントランスホールなどでプレイすると声が出るかと思いますが、苦情などはありませんか。

工藤副館長：あまり借りられていない現状もありますが、ひっそりで行う方が多いです。こちらでは、中高生にワイワイ遊んでいただくことを想定していましたが、中々その層には借りられず、就学前や小学校低学年の親子や、大人の方同士が遊んでいることが多く、静かに利用されているため、大きな苦情はありません。

工藤委員：図書館は静かにするところのイメージがあり、この図書館は割とオープンな造りなのでそういった苦情が無いのかと気になっておりましたが、今のところ無いのですね。分かりました。ありがとうございます。

中村委員：施設の機器の更新の部分で、「貴重資料を適切に保管するための集密書架」とありますが、これは貴重資料を保管している書庫があり、その中に増設するもので、一般の方も利用できるものなのでしょうか。

工藤副館長：今回増設する書架は内部資料を保管するためのもので、一般の方が閲覧できる場所に増設するものではありません。鍵のかかった閉架書庫に増設し、職員が使用するための整理書架となります。石狩市の元助役である田中實さんが収集された貴重な資料を大量にご寄贈いただいております。それらを数年かけて整理してきましたが、段ボールにして約80箱分ほどの分量があります。現状では必要な資料を都度段ボールから取り出す必要があり、活用が難しい状況にあります。

そのため、書架を増設して整理・配架することで、主に職員のレファレンス業務に役立てていきたいと考えています。

なお、貴重資料の中には図書として利用可能なものも含まれておりますので、必要に応じて利用者の方にご覧いただく機会もあるかと思いますが、基本的には職員が活用する資料が中心となります。

河村会長：集密書架は一般の方は入れませんか。

工藤副館長：はい。

河村会長：必要があれば職員が取りに行く形ですかね。

工藤副館長：はい。

河村会長：ありがとうございます。他にございませんか。

— 会場から意見無し —

3 その他

河村会長：その他、図書館から何かありますか。

工藤副館長：私から1点ご報告がございます。第1回目の会議におきまして、令和5年度から令和6年度にかけて「利用登録者数」が大幅に増加した理由についてご説明しました。

その際、システムの能力向上や、期間を空けて利用される方の再登録の負担をなくすため、「3年間貸出利用がない方のデータ削除」を停止した旨をお伝えしました。これに対し、河村会長より「従来どおり、3年間未利用のデータを削除した数字を統計として使用する方が望ましい」とのご意見をいただきました。

図書館といたしましても改めて検討した結果、データを残し続けると登録者数が増加する一方で、利用の実態とは徐々にかけ離れてしまい、統計としての意味をなさないと判断しました。つきましては、今後は従来どおりの方法で数字を算出し、統計をとることとしましたので、ご報告させていただきます。

河村会長：ありがとうございます。私自身も気になっていた点でもあり、以前も3年という期間の根拠について質問がありましたが、図書館業界でも3年というのは一般的な基準となっています。今回、とても良い形で統計データを取られていると感じましたので、ぜひ継続していただければと思います。登録者数が増えていく中で、市民ではない方の登録が残っていくこともあると思いますので、今回の取組はとても良かったのではないかと思います。ありがとうございました。他にございますか。

工藤主査：新年度の第1回図書館協議会は、8月を予定しております。近くなりましたら、日程調整をさせていただきます。

伊藤館長：お疲れ様です。今回の会議が、今任期最後の会議となります。この2年間にわたり、市民図書館の運営について、皆さまからさまざまなご意見をいただき、誠にありがとうございました。今後も、市民図書館が他の自治体の模範となるよう、先駆的な取組に積極的にチャレンジしていきたいと考えておりますので、引き続きご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

また、私事ではございますが、このたび人事異動により、学校教育部へ異動することとなりました。同じ教育委員会内ではありますが、今後は学校側の立場から、学校図書館の運営や連携について考え、取り組んでいきたいと思っております。

これからも図書館との連携を大切にしながら、より良い取組を進めていければと考えておりますので、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

3年間という短い期間ではありましたが、私自身、図書館での勤務は初めてで、多くの学びや発見がありました。プライベートでも以前より本を読む機会が増え、この習慣をこれからも続けていきたいと思っております。

これまで本当にありがとうございました。

河村会長：ありがとうございました。以上をもちまして令和7年度第2回石狩市民図書館協議会を終了いたします。皆さまありがとうございました。お疲れ様でした。

令和8年4月17日

会議録署名委員

会長 河村 芳行